

自然博物館  
ニュース

# A·MUSEUM ア・ミュージアム

vol.31



ミュージアムパーク  
茨城県自然博物館



ザゼンソウ（2月上旬）（撮影：大津昭治氏）



葉を広げたヒメザゼンソウ（6月上旬）  
(撮影：大津昭治氏)

## 春を告げる—ザゼンソウ—

達磨大師が座禅を組む姿に似ているところからついたザゼンソウ（座禅草）。別名ダルマソウとも呼ばれます。

春の訪れとともに2月から4月にかけて花を咲かせます。茨城県内では、水戸市・那珂町・東海村や県北部の湿地にまれに生育しています。

暗紫褐色の花びらのように見えるものは仏炎苞（ぶつえんほう）とよばれ10~20cm、中心にある円柱状の花序に多数ついている小さなものが花で、花びらはありません。葉は花が咲いた後に生長を続け、6月にはサトイモ科の植物らしく大きな葉となります。

山の春を告げる植物といえば、同じサトイモ科の仲間で仏炎苞が白いミズバショウ（水芭蕉）を思い浮かべる人も多いかもしれません、残念ながら茨城県には自生していません。

とかく真っ白で清楚な印象を与えるミズバショウが春の訪れを喜び夢を見て咲く花なら、ザゼンソウは春なお默々と瞑想に耽っているかのようです。

（教育課：根本 智）

第24回企画展 コリアの自然史 —大陸と日本を結ぶ生きものたち—  
코리아의 자연사 – 대륙과 일본을 잇는 생물 –  
2002年3月16日(土)~6月16日(日)

朝鮮半島の野生生物や自然環境保全の取り組みについて、いったい私たちはどのようなことを知っているでしょうか？様々なメディアで、歴史や文化については紹介され始めています。しかし残念ながら朝鮮半島の自然史について、私たちが見聞する情報はごく限られているのが現実です。

今回の企画展は、朝鮮半島の自然史情報を総合的に展示しようという試みです。さらに、朝鮮半島と日本の生きものの共通性についても紹介します。現在の日本の生きものの特徴を考えるとき、生物の大陸との交流に関して2つの重要な経路があげられます。ひとつはシベリア・サハリンといった北方からの経路であり、もうひとつは朝鮮半島、対馬、九州という経路です。つまり、朝鮮半島の自然を理解することは、現在の日本の自然を見据えることにもつながります。



朝鮮民主主義人民共和国徳島で繁殖中のクロツラヘラサギ  
©朝鮮大学校自然博物館



智異山ノコダニ峰近辺で自動撮影されたノロ  
©山崎晃司



絶滅が心配されるジャコウジカ  
©鄭 鐘烈

今回私たちが展示する情報は、朝鮮半島のすべてを網羅するものではありません。あくまでも朝鮮半島の、もっと広義にいえば、私たちの隣国であるアジアの自然史に関する情報を私たちが共有するための、ひとつのきっかけだと考えています。

朝鮮半島は、私たちのすぐ目と鼻の先です。「近くで遠い」という言い回しは、そろそろ終わりにしようではありませんか。

(教育課：山崎晃司)



ツシマヒラタクワガタ ©久松正樹



チョウセンスズガエル ©湯本勝洋



求禮を流れる蟾津江のコウライケツギョ  
©山崎晃司

会期 平成14年3月16日(土)~6月16日(日)

休館日 毎週月曜日(ただし4月29日、5月6日は開館し、翌日は休館)

入館料 大人 720円(580円)

高・大学生 440円(300円)

小・中学生 140円(70円)

\* ( ) 内は20名以上の団体料金です。

\* 未就学児、65歳以上の方、障害者手帳を持参の方は入館無料です。

\* この料金には、本館内常設展・野外施設入場料が含まれています。

記念行事

・コリアの自然史は今～自然史研究の現状と課題～

6月16日(日)午前9時30分～午後5時

定員300名(対象：中学生以上 \* 内容は専門的なものです。)

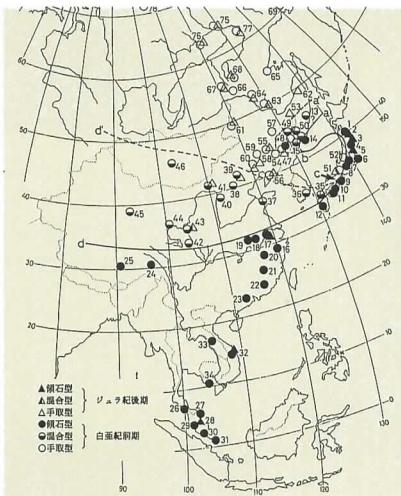
\* 事前にお申し込み下さい(先着順)。本号発行時に定員をこえ受付を終了している場合にはご了承下さい。

主な展示内容

今回の企画展は、梨花女子大校自然史博物館、慶星大校鳥類館、韓国鳥類保護協会、東京朝鮮学園朝鮮大学校をはじめとする、国内外の多数の自然史関係機関の協力を得て実現しました。ジャコウジカ、キエリテン、ノロ、ゴーラル、オオカミ、トラ、クロツラヘラサギ、ツルクイナ、クロハゲワシ、コウライケツギョ、チョウセンスズガエルなどの貴重な標本や生体を展示する、これまでにない規模・内容の企画展となっています。

## 研究ノート●石川方面調査報告

私の個人的な研究の対象は中生代の植物です。ちょうど恐竜たちが地球上を闊歩していた頃に生えていた植物ということになります。この頃の植物の分布については、図のように、手取型、領石型、及びその混合型に分類されています（大花・木村、1995）。これらは植物地理区とよんでいるもので、境界線を境に出てくる化石植物は全く異なる様相を呈します。私は、現在、福島県を中心に領石型植物の研究をしていますので、手取型を見る機会はほとんどありませんでした。



中生代後期の植物地理区

昨年の夏、石川県の小松市、白峰村に調査に行く機会にめぐまれ、普段見る機会のない手取型の植物化石を数多く見ることができました。今回はその際に見ることのできたフィールドの様子をいくつかご紹介しましょう。

最初は、海岸の様子です。加賀海岸は越前加賀海岸国定公園に含まれ、多様な自然景観に満ちた海岸として、古くから多くの人々に親しまれてきました。写真は片野海岸の長者屋敷跡と呼ばれるところで、軽石凝灰岩が波によって浸食され、

ご覧のような奇観をつくりだしています。この岩石の中には火山豆石とよばれる小豆程度の粒がたくさん含まれています。



片野海岸の長者屋敷跡

次に手取川ダムの様子です。風景写真としては水と緑も写っている方がいいのでしょうが、ここではダムの建築に利用されている岩石を見てほしいと思います。この岩石は下の写真を見てももらうとわかるように、たいへん大きな粒が含まれる礫岩という種類で、周辺から大量に採集することができる五味島礫岩と呼ばれるものです。



手取川ダム



手取川ダムの建築に使用された五味島礫岩

北陸3県と岐阜県には、手取層群と呼ばれる、今からおよそ1億6000万年前から1億1000万年前にできた地層が分布しています。この地層からはアンモナイト、恐竜、植物などの化石が見つかっており、地質・古生物の研究がさかんに行われている所です。写真は通称「桑島化石壁」と呼ばれる露頭で、古くから保存良好の植物化石が産出することで知られていました。しかし、最近になって、肉食恐竜や小型ほ乳類の化石が発見され、世界的にも注目を浴びています。この露頭の向かい側には「白山恐竜パーク白峰」があり、展示と体験活動で化石のことを学ぶことができます。下の写真はその入り口付近の様子で、恐竜の模型とメタセコイアという組み合わせが気に入っています。

(教育課：滝本秀夫)



桑島化石壁



白山恐竜パーク白峰

## 小さな発見—ミュージアムコンパニオン● “？ボックス”

皆さんも博物館の展示の中で、どの展示が一番印象に残っていますか。動く恐竜の模型や隕石などでしょうか。館内の常設展示は約3500点あります。はっと目を引く大きなものから、よく目を凝らさないと見逃してしまうような小さなものまで様々です。なかには意外な場所に隠れたり、工夫された展示もあります、そのひとつ普段はあまり目につかない“？ボックス”を紹介します。

“？ボックス”は第3展示室「自然の

しくみ」にあります。引き出しを開けると鳥類の卵のレプリカが並び、フクロウやペンギン、カッコウ類とカッコウ類の托卵相手の卵などが見られます。その他にもニホンリスの巣や鳥の翼、植物の封入標本が入っています。ニホンリスの巣はどんな材料で作られていると思いますか。答えは・・・“？ボックス”を見つけてのぞいてみて下さい。

(ミュージアムコンパニオン：大滝千晶)



## 展示品紹介○新しくなった常設展示



鉱物のできるところ



ダンブリ石



黄鉄鉱

第2展示室「地球のおいたち」に「鉱物のできるところ」の展示があります。

これまで、日本産の鉱物を中心に展示していましたが、今回、資料収集の充実に伴い大幅な展示替えを行いました。大型の黄鉄鉱、ダンブリ石、孔雀石、緑柱石（別名、アクアマリンと呼ばれる淡い水色の石）など、親しみやすい鉱物を中心に展示しました。地球内部からの贈り物である鉱物の形（結晶）や美しい色を鑑賞し、自然界の不思議さに思いをはせて下さい。

アンモナイト類の系統が、最近の研究の成果を踏まえ、一部に変更と追加が行われました。そこで当館では昨年の3月に最新の学説に基づき「アンモナイトの系統」の展示替えを行いました。



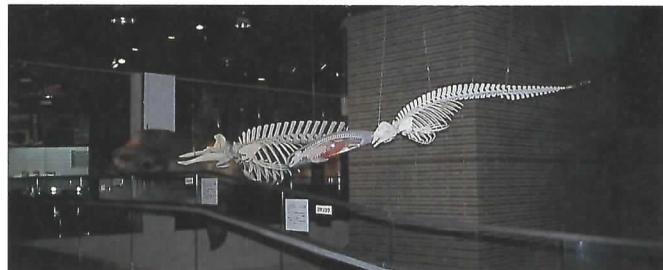
アンモナイトの系統

メソブゾシア・パシフィカ

今回、「アンモナイトの系統」展示の前面に安藤寿男氏より寄贈していただいた巨大アンモナイトを展示しました。アンモナ

ト類は、1万種以上が報告されています。今回寄贈していただいた標本は、北海道夕張市から産出したメソブゾシア・パシフィカで、直径が約90cmあります。縫合線もはっきりと出ており、見ごたえのある標本です。従来から第2展示室に展示されているカナドセラ（産地：サハリン）と共にタッピング標本として展示されています。

また、第3展示室「自然のしくみ」の入口に向かって右側の空間に、海生ほ乳類3体の骨格標本を新しく展示しました。



新しくなった第3展示室の入口付近



コマッコウ

最初の骨格標本が、コマッコウです。鹿島郡旭村の柏熊海岸にストランディングした個体で、体長が221cmありました。またこの個体から胎児が検出されました。



スナメリ

スナメリの展示は、強化プラスチックとアクリルで外形を造り、その中に実物の骨格標本を埋め込んだものです。この標本は、鹿島郡旭村の滝浜海岸にストランディングした個体で、全長132.5cmありました。



アカボウクジラ

アカボウクジラは、正面から見ると人間の赤ん坊のように見えるため付けられた名前です。鹿島郡大洋村の台瀬津海岸にストランディングしたもので、体長が5.3mあります。

常設展示に加わったこれらの資料を是非御覧下さい。

(資料課：都賀和男)

## 野外だより○さあ！土の中の生きもの観察をしよう

野外のつたの森の落ち葉や倒れた木の下をのぞいてみるとたくさんの生きものがいます。ここでは、皆さんがあくまでこらせば出会うことのできる土の中の生きものを紹介したいと思います。落ち葉の下ですぐに目につくのはダンゴムシです。ふれるとコロッとした体が丸くなりとてもかわいいものです。倒れた木の下にはムカデやヤスデも見ることができます。さらに落ち葉の下をかきわけて見てみると

ミミズの姿なども見ることができます。

そして、自然発見工房にあるツルグレン装置を使うと、もっと小さな生きものも探すことができます。ダニやトビムシ、カニムシなど肉眼では見にくいものも顕微鏡で観察できます。

土の中の生きものたちは、それぞれ工夫して一生懸命に生きています。たくましく生きる生きものたちをぜひ観察してみて下さい。

(資料課：湯本勝洋)



歳時記●春の夜の惑う星たち



春、博物館の野外はソメイヨシノはじめさまざまな花でいっぱいですが、今年の春は夜空も大変華やかです。図は、4月14日午後7時ごろの西の空です。冬の間、南の高い空にあった星座たちは、だいぶ低い空に傾いてきました。これらの星座の明るい一等星たちに混じって、このあたりには肉眼で見ることのできる明るい惑星が大集合しています。

地平線に近いところから、金星、火星、土星、木星です。これらの惑星は図中黄

色い線にそって並んでいるように見えます。この線は「黄道」といって、空の中の太陽の通り道です。太陽は、この線上を西から東に向かって1年間で1周します（いま太陽は、西の地平線の真下にあります）。地球も他の惑星も、太陽の周りを公転する天体ですが、その動きを地球上から見ると、この黄道にそって東西に往復しながら動くように見えるのです。そのために惑星を「惑う星」と書き示し、背後にある黄道十二星座との位置

関係に照らし合わせて、古来より占星術に使われてきました。しかし、それぞれの惑星は、万有引力の法則に従って太陽の周りを単純に回転しているにすぎず、どんな位置関係になろうとも地球に及ぼされる力が変わったりすることはありません。

この日、前の日に新月をむかえた月は、か細い姿を西の低い空に見せています。この日から、毎日少しづつ黄道の近くを東に移動していき、形もだんだんと丸くなっています。その後2回目の新月である6月11日の午前7時ごろ、月と太陽がちょうど重なりあって、日本では部分日食が見られます。最大食分が45%をこえ、「晴れれば」まずは見ごさえとなるでしょう。ちなみに、皆既日食を茨城で見るためには、2035年9月2日まで待たなければなりません。

（資料課：高橋 淳）

6月11日の部分日食

欠けはじめ 6:42頃  
食の最大 7:40頃  
(最大食分 約45%)  
食の終わり 8:45頃



収蔵品紹介●シロカイメン *Spongilla alba*



古タイヤに固着したシロカイメンの液浸標本

皆さんの中に、第23回企画展「ヒヌマイトトンボに吹く風」の入り口付近で古タイヤについてのシロカイメンが展示されていたのを覚えている方はいますか。

シロカイメンは淡水海綿の1種で、国内では涸沼と宍道湖(島根県)の汽水湖でしか報告がありません。特に、涸沼は1936年に国内で初めてシロカイメン

が発見された場所として知られていますが、最近、水質の悪化等により個体群の減少が懸念され、茨城県版レッドデータブックでは希少種に選定されています。

淡水海綿は国内ではこれまで11属25種が記録されています。流れの緩やかな水域に生息し、岩、石、沈木、杭のほか、古タイヤやロープなどの人工物の表面に固着して生活しています。海綿体の形は塊状のものから樹枝状のものまで様々で、種による違いははっきりしていません。体色は色素がないので基本的に白ですが、時に緑藻類を細胞内に共生させているため、写真的シロカイメンのように生時は緑色をしているものもいます。

また、淡水海綿は有性生殖のほかに、休眠芽により子孫を残すという無性生殖も行っています。秋に海綿体は体内に「芽球」をたくさん形成します。冬に海綿体が崩壊死滅すると、それらの芽球は水中に遊離され、翌春に発芽してまた新たな海綿体を形成するのです。このような繁殖様式は低温や乾燥などの環境変化へ

タンスイカイメン科

の適応と考えられています。

企画展で展示されていた標本は1999年10月12日に私と当館学芸嘱託員の茅根重夫氏が、涸沼(茨城町下石崎)で採集したものです。この標本は3月より当館のディスカバリー・プレイス「茨城の自然」コーナーに展示されます。

（資料課：池澤広美）



上 古タイヤに固着したシロカイメン(生時)  
下 シロカイメンの芽球

## 館職員レポート●害虫にご用心 廣瀬 孝久（資料課・植物研究室）

博物館に勤務してはや4年…、資料課の職員として私が4年間担当している仕事を一つ紹介したいと思います。

博物館の基礎的な機能の一つとして、標本等の資料を「収集」して「整理」し、「保存（保管）」するという一連の流れがあります。保存にあたっては、収蔵庫や展示室の貴重な資料を、害虫やカビなどの被害からいかにして守っていくかが大きな課題です。

### 博物館内でみられる虫（≠展示品・収蔵品）

当館では、毎年収蔵庫や展示室の消毒を行っているので、標本が虫に食い荒らされるという被害は出ていません。しかしながら、消毒によってそこにいた虫がすべて死滅することは確かですが、普段どんな虫がそこに生息しているかはほとんどわかりません。そこで、博物館内のどこに、どんな虫が、どのくらいいるのかを明らかにするために、平成13年より調査を始めました。このような調査は専門の業者が行いますが、環境調査あるいはモニタリング調査と呼ばれ、近年はこれを導入する博物館や美術館が増えています。

昆虫類の生息調査は、それらを捕獲することが基本となります。捕獲の仕方はいろいろあるようですが、当館の場合は、



専用掃除機による吸引捕獲



フィルターにかかった虫やゴミ

粘着シートとフェロモン（誘因物質）を組み合わせたトラップ（捕獲するためのわな）と誘虫ランプを使ったトラップ、捕獲専用の掃除機による吸引で捕獲しています。およそ月1回の割合で調査を行った結果、予想していたよりも多くの昆虫が館内にいることがわかりました。確認された種は24種で、アリ、ハエ、カブトムシ、ハサミムシ、ダンゴムシ、ゴキブリの仲間など、一般の家庭とほとんど同じです。

### 博物館資料にとっての恐るべき敵とは…

捕獲数をみると、夏場（6月～8月）はどの月も1,000～1,500匹が捕獲されており、その数の多さにあぜんとしますが、ほとんどの昆虫は、出入口や開いた窓を通って外から侵入してきたものです。それらは、たまに来館者のみなさんに不快感を与えることはあっても収蔵資料に被害を与えることはありません。しかし、一部のものは剥製や乾燥標本等に重大な被害を及ぼす虫（文化財害虫）であり、4種（タバコシバンムシ、ジンサンシバンムシ、ヒメマルカツオブシムシ、チビタケナガシンクイムシ）の文化財害虫が収蔵庫や展示室等で捕獲されています。文化財害虫の怖いところは、貴重な標本資料を餌としてしまうことです。さらに、これらは、餌が豊富にあるところでは爆発的にふえる傾向があるので、収蔵庫に侵入されて

そのままにしておくと取り返しのつかないことになる可能性があります。当館では、捕獲された文化財害虫の約8割がタバコシバンムシ、約1割がヒメマルカツオブシムシとなっています。この2種は、どちらも幼虫が食害を及ぼします。

#### タバコシバンムシ（シバンムシ科）

*Lasioderma serricorne*

体長1.7～3.1mmの甲虫。幼虫は、ほとんどすべての乾燥貯蔵食品を好み、植物標本、昆虫標本、種子、書籍等も食害する。

#### ヒメマルカツオブシムシ（カツオブシムシ科）

*Anthrenus verbasci*

体長1.7～3.2mmの甲虫。幼虫は、昆虫標本、毛皮、羽毛、毛織物等の動物質を好み、種子、穀類、生薬等の植物質も食害する。

展示室のどこかには、写真のようなトラップが仕掛けあります。もし見つけたとしても、動かしたり捨てたりしないで、そっとしておいて下さい。今後も更にデータを集めるとともに、文化財害虫のより少ない環境をつくり、大切な資料を後生に残していきたいと思います。



トラップ（フェロモンなし）



フェロモントラップ  
左：カツオブシムシ用、中・右：シバンムシ用

## コラム by director NAKAGAWA ◎石ころの魅力

生物に造詣の深かった昭和天皇が‘雑草’という言葉を使われなかった話は有名ですが、それは、どんな生き物にもそれなりの歴史があり、存在意義があるとお考えになられていたからだろうと思います。

‘石ころ’という言葉にも、同じようなニュアンスがあります。路傍にある何気ない石ころにも長い長い地球的な歴史と、そこに存在するに至るまでの人をふくむ他との色々な関わりが内蔵されてい

るのではないかでしょうか。特に、人との関わりの中では個人によって千差万別だろうと思います。

第2回市民コレクション展は、そのような思いから、一般市民の方々がそれぞれにお持ちになっている‘石ころ’を展出してもらい2月3日から約3週間開催しました。

予想をこえて集まった見事な‘石ころたち’をみながら、昭和天皇のお心に少し近づいたような気持ちになりました。



イラスト：瀬楽かおるさん

## トピックス●12~2月

### 自然観察会「イノシシ道を突き進もう」①1月20日(日)

年10回程度茨城県内の豊かな自然や動植物を対象に一般の参加者を募って開催している自然観察会。今年1月には、茨城県鳥獣保護員である地元大子町在住の獣師金澤佑氏にご案内いただき、大子町西部の里山（休獵区）において実施しました。獣たちが移動に使っている獣道を廻ったり、フンなど生活痕跡を見つながらの観察会に、参加者からは「里山を違った角度から見ることが出来た」との感想が寄せられました。



イノシシのヌタ場（泥浴び場）を見学

### 「宇宙人は本当にいるのだろうか！？ —最新の天文学成果から宇宙像を探る～」 ②2月3日(日)

「皆さんには宇宙人がいると思いますか」という問い合わせでスタートした今回の自然講座。講師の国立天文台天文情報公開センター 縣秀彦氏の興味深いお話と、この日が初公開となる貴重な「すばる望遠鏡」による最新の宇宙映像のほか、迫力あるCG画像での宇宙ライブショーの上映に、参加された方々はますます宇宙の謎にひきこまれてしまいました。



宇宙について語る 縣秀彦氏

### ジュニアスタッフ募集

博物館で動物・植物・地学・環境などについて調査・研究し、その内容を来館者に発表するこの事業に参加した中学・高校生32名が当館のジュニア学芸員に認定されました。現在、館内の解説活動や各種イベントで活躍しています。

平成14年度も事業への参加者を募集します。なお、平成14年度は、より直接体験を重視したプログラムでの開催を予定しています。なお、本事業への参加希望者は6月2日(日)の事業内容の説明会にご参加下さい。事業内容や日程などの詳細を説明します。



館内で活動するジュニアスタッフ

**募集対象** 高校生、中学生  
**募集人数** 40人程度  
**説明会** 6月2日(日)  
**説明会参加申込み期間** 4月20日～5月26日  
**応募期間** 6月下旬～7月上旬  
**事業の主な活動時期** 夏季休業期間中7日間程度  
**問い合わせ先** 教育課ジュニアスタッフ担当

### 水系だより

浦島太郎やうさぎとかめなど昔から童謡、童話で登場する「かめ」は、老若男女を問わず、親しまれている動物です。また、カブトムシや金魚などと並び子供たちが初めて飼う生き物の一つでもあります。

ところでカメは、世界中で約250種を数え、13科に分けられています。このうち博物館には、後あしの付け根からくさい臭いを出すことでその名の由来があるクサガメと北アメリカ原産でミドリガメの名で知られるミシシッピーアカミ

ミガメの2種類が飼育されています。

動きが遅い動物の代表のように言われる“カメ”普段は、第3展示室〔下流のすがた〕の水槽で、やや頭をもたげ気味に悠々と泳ぎを満喫しているように見えます。しかし、ひとたび餌の時間になると、餌が置いてある桟橋を目掛け我方に近寄ります。その姿は、とても「歩みのろい」カメからは想像も出来ません。

皆さま、このような側面を持つカメを一度ご覧頂きたいと思います。

(アクアワールド大洗：黒澤義明)

### 課題植物押し花絵コンクール結果発表

希少植物の保全に配慮しつつ、身近な野草を材料に作品を制作し、その作品を展示することにより、野生の植物に対する興味を通じて、できるだけ多くの方に自然保護への関心を高めて欲しいと始まった課題植物押し花絵コンクールも平成13年度で5回目となります。身近にある植物20種類で作られる押し花絵ですが、今回から作品に対するテーマを設定し募集いたしました。今回のテーマは「人と自然」一人と自然との共存という視点から。小学生から大人の方まで、テーマをイメージした創造性豊かな力作83点が応募され、企画展示室奥のコーナーにおいて、12月22日から1月14日まで展示を行いました。

なお、審査の結果、各賞の受賞者は以下の方々に決まりました。(敬称略)

館長賞	山中 洋子「森の中へ」
副館長賞	山口八重子「里山の風景」
副館長賞	山口絵理子「ぽかぽかおはな」
優秀賞	鈴木 絹江「草花と小鳥たち」
優秀賞	小林 有美「春の日の午後」
優秀賞	中村紀世佳 「鳥からのおくりもの」



館長賞作品 山中洋子「森の中へ」



エサをほおばるクサガメ

## インフォメーション (4~6月の行事)

自然講座(定員:300名)

『コリアの自然史は今

～自然史研究の現状と課題～』

6月16日(日) 9:30~17:00

(対象:中学生以上\*内容は専門的です)

自然観察会(各40名)

4月14日(日)

『春植物の観察

～カタクリを見ませんか～(筑波山)』

5月3日(金)

『わたり鳥～シギとチドリをさがそう～

(水海道市)』

(対象:小学生以上 小学生は保護者同伴)

\*現地集合。

自然教室(定員:40名)

4月20日(土) 10:00~12:00

『顕微鏡でゾウリムシを観察しよう』

5月11日(土) 10:00~12:00

『土のひみつをさぐろう

～土壤を使ったペンダントづくりに挑戦～』

6月8日(土) 10:00~12:00

▲『天気予報にチャレンジ』

自然についてわからないこと、ふしぎだな、と思っていることなど、なんでも気軽にご相談ください。

(来館・郵便・電話・eメールで受付)

(対象:小学4年生以上

ただし▲印は小学生以上)

大人&子どもフィールドガイド

(定員:大人30名 子ども30名)

6月9日(日)

『海辺で自然満喫

(国営ひたち海浜公園)』

子どもコース(対象:小学生のみ)

貝がらであそぼう

大人コース(対象:中学生以上)

海辺の貴重な植物を観察しよう

\*現地集合

[観察会等への申込方法]

2週間前までに電話で申し込んで下さい。なお、希望者多数の場合は、抽選を行います(自然講座は先着順)。

また、本号発行時に受付を終了しているものもあります。予めご了承ください。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館

TEL 0297-38-2000

0297-38-0927(直通)

サンデーサイエンス【楽しい体験教室】

月ごとにいろいろなテーマで、毎週日曜日にディスカバリー・プレイス内のスタジルームで実施しています。

観察や実験、工作などの体験をとおして、楽しみながら自然への関心を深める機会です。

テーマ

4月『化石のレプリカをつくろう』

5月『鳥のちぎり絵をつくろう』

6月『葉脈標本のしおりづくり』

時間 午前の部 10:30~12:00

午後の部 14:00~15:30

わくわくディスカバリー

親子向けの参加体験型イベントです。

4月27日(土)

『桜のフローティングキャンドルをつくろう』

5月25日(土)

『紙ねんどでパズルをつくろう』

6月22日(土)

『空き箱で魚をつくってあそぼう』

時間 午前の部 10:30~12:00

午後の部 14:00~15:30

[サンデーサイエンス・わくわくディスカバリー受付]

受付 開始時間の1時間前から、スタジルーム前で受け付けます。

希望者多数の場合は抽選を行います。

### 小・中・高校生の無料入館日が変わります。

平成14年4月から、学校完全5日制施行にともない、従前第2・第4土曜日のみが対象となっていた小・中・高校生の無料入館日が平成14年4月から毎週土曜日(ただし春・夏・冬休み期間を除く)に変わります。

#### その他のイベント

- ・サイエンスデー(無料入館日) 4月29日(月)・6月5日(水)
- ・サイエンスデー関連イベントデー 4月29日(月)・6月2日(日)

平成14年6月24日(月)から6月29日(土)までの6日間は館内整理のため臨時休館となります。

#### 【交通案内】



- 常磐自動車道谷和原I.C.から20分
- JR柏駅で東武野田線乗り換え、東武野田線愛宕駅～茨城急行バス「岩井車庫行き」乗車
- ～「自然博物館入口」下車、徒歩10分。



#### 【開館時間】

午前9時30分から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

※ペット及び遊具等の持ち込みはご遠慮ください。

ならないのが花の谷にあるソメイヨシノの桜並木。この博物館の桜並木はvol.3、11、15、27とたびたび「A·MUSEUM」にも登場しています。

#### ○サイエンスデー(無料入館日) ○小・中・高校生無料入館 ■休館日

4月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

#### 5月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

#### 6月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

#### 利用案内

##### 【入館料】

区分	本館・野外施設		野外施設のみ
	企画展開催時	通常時	
大人	720円(580円)	520円(420円)	200円(100円)
高校・大学生	440円(300円)	320円(200円)	100円(50円)
小・中学生	140円(70円)	100円(50円)	50円(30円)

(注) ( ) 内は団体料金(20人以上)

未就学児・65歳以上の方・障害者手帳をお持ちの方は入館無料です。

つきの日の入館料は無料です。

●4月29日(みどりの日) ●6月5日(環境の日)

●11月13日(茨城県民の日) ●3月21日(春分の日)

▲高校生以下の児童・生徒は、毎週土曜日は入館無料です。

(但し、春・夏・冬休み期間を除く)

##### 【休館日】

- 毎週月曜日(但し、4月29日(月)5月6日(月)は開館し、翌日休館となります)
- 年末年始12月28日～1月1日
- 館内整理6月24日～6月29日

年々、桜の見事さは増すばかり。博物館の桜、今年も大勢の皆さんにお楽しみいただきたいです。

(T・K)

#### 【編集後記】

寒かった冬も終わり、春に向けて博物館野外の草花も少しずつ芽吹いています。博物館の春といえば、忘れては

## 自然博物館ニュース A·MUSEUM(ア・ミュージアム)

企画・編集: ミュージアムパーク茨城県自然博物館企画課 / 発行2002年3月25日

〒306-0622 茨城県岩井市大崎700番地 TEL0297-38-2000

ホームページ <http://www.nat.pref.ibaraki.jp/>

E-mail [webmaster@nat.pref.ibaraki.jp](mailto:webmaster@nat.pref.ibaraki.jp)

A·MUSEUM(AMUSEMENT+MUSEUM)ミュージアムパーク茨城県自然博物館は、従来の博物館のイメージを一新し、誰もが親しみ、誰もが楽しめるア・ミュージアム(アミューズメント+ミュージアム)をめざしています。